

PET-CT 検査説明書

患者名： 様
(患者 ID：)

1. PET-CT 検査について

この検査はブドウ糖類似体に放射性同位元素を標識した ^{18}F -FDG という薬剤を静脈注射し、全身に行き届いた後に PET-CT 装置で撮影を行い、病気の原因や病状を画像にして診断をする検査法です。

2. 安全性について

検査において使用する ^{18}F -FDG は、重篤な副作用の報告はありませんが、稀に (1.1%)、嘔気・そう痒感などを起こす事が報告されています。

3. 被曝について

使用する薬剤は非常に強い放射線を放出しています。PET-CT 検査 1 回で約 9.0 mSv (ミリシーベルト) という量の被曝を伴います。これは胃のバリウム X 線検査を 2 回受ける放射線量とほぼ同量です。

4. 検査中について

注射後は極力安静にしていただき、注射後約 2 時間は検査区域から退出することはできません。また検査中はスタッフの被曝防止の観点から、マイクでのご案内や防護ガラス越し、距離をおいての患者様対応となる事をご了承下さい。

5. 付き添いについて

患者様一人で寝台への昇降が困難な場合や、視力・聴力に障害をお持ちの場合には、ご家族の付き添いをお願いする事がありますのでご協力をお願い致します。また、被曝の観点から乳幼児や小さなお子様を連れての検査は出来ません。

6. 検査後について

注射をしますと患者様自身が放射線源となり、検査終了後約 12 時間は乳幼児や妊娠されている婦人との密接な接触はなるべく控える様お願い致します。それ以降につきましては特段の制限等はございません。

7. PET-CT 検査の限界について

病気の種類によっては見つけ難いものもあり、また 1cm 以下の大きさの物は発見されない場合もあります。血糖値の高い場合にも発見されない場合があります。

8. PET-CT 検査の医学的利用について

この検査で得られた画像や結果等は、検査を受けた患者様が特定できないように十分配慮した上で、学術・研究等に利用させていただく事がありますので、ご理解とご協力をお願い致します。

9. キャンセル等について

この検査で使用する医薬品は使用期間が非常に短いため、必ず検査時間までに来院していただく必要があります。検査時間に遅れた場合には検査が出来ませんのでご注意ください。なお、注射日当時のキャンセル、連絡なくキャンセルされた場合、検査薬は保存ができませんので、検査薬費用をお支払いいただくこととなります。

年 月 日

担当医師 (主治医) _____